

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社フレンズホーム		
事業所名	グループホームフレンズハウス中島新町 1		
所在地	愛知県名古屋市中川区中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	平成22年11月22日	評価結果市町村受理日	平成23年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成22年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を明るく、楽しく過ごしていただきたい。その為にもご利用者様のこれまでの生き方、趣味を大切にしたいと考え、最低限の安全を確保しつつ、必要以上の束縛をしない事を心がけています。また、やり残したことをできるだけ少なくしていただくためにもご利用者様には出来るだけ自分のやりたいことをしていただくよう努めています。そして、もう旅行を楽しめないと思われる方に一泊旅行、日帰り旅行を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは利用者が自分の趣味である園芸や読書、またお茶などを楽しみながら、それぞれの生活リズムで自由にのんびりと過ごしている。その中で自分の役割を見つけ、自立したその人らしい暮らしができており、職員はそれを見守りながら支える支援に取り組んでいる。定期的に介護計画を見直し、家族と利用者の意向を職員間で把握することで、よりよいサービスの提供ができています。また地区の敬老会や盆踊りへの参加、学区の運動会へ足を運ぶなど地域交流の輪も広がり利用者の楽しみとなっている。毎月買い物ツアーや喫茶ツアーを計画し、利用者の希望のお店へ出向く外出支援にも力を入れ、ホームに閉じこもらない環境作りにも努めている。今年でホームが5周年を迎え、地域の人々に知られ、理解される存在になってきた。今後は地域で認知症を抱えている家族に情報の提供をしていくなど、地域に貢献できるホームを目指していきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、明るく、楽しく天気暮らしたい。必要以上に束縛しない。自由で安全なその人らしい生活が営める施設の運営に努めている。	ホーム理念を各フロアーに掲示し、いつでも職員と利用者の目が届くようにしている。会議でも確認し合い、利用者の自己決定を尊重した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様とともに盆踊りや敬老会、町内のお祭り等の行事に参加して地域との交流に努めている。	敬老会への参加や学区の運動会へ見学に出かけるなど地域交流の場を広げている。また、地域の人が認知症について問い合わせてくることもあり、相談と情報提供を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れ、中学生の体験学習も積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進会議を開催している。利用者様の近況報告等を行い、地元民生委員の方や、家族会の会長、地域包括センターの方からもご意見をいただいている。	民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者などの参加協力を得て開催している。ホームの状況報告と共に、災害時の地域との協力体制などを話し合い、地域と共に支え合えるホームを目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に区役所の介護保険課や保護係を訪れて利用者の暮らしぶり等を伝えて、連携を深めている。	定期的に区の窓口へ足を運び、情報交換を行うよう努めている。生活保護者の担当者が来訪した際、現状報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。徘徊のリスクのある利用者様もいらっしゃるが、職員の見守りにてそれを防いでいる。尚、夜間は防犯上の理由にて玄関の施錠を行っている。	利用者の意に添わない支援は拘束の1つと考え、個々の意思を尊重した支援を心がけている。各職員間で気がついたことや対応に迷いが出た際は、会議で話し合いサービスの質の向上に努めている。	新任職員を含め、研修への参加やホームでの勉強会の実施に期待している。
7		○虐待の防止の徹底	虐待が身体的なものだけでなく、暴言、無		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	視等心理的な嫌がらせを含むことを常日頃、話し合っている。また、職員が虐待という行為を行うといった状態にまで追い詰められないよう、ストレスの解消に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人、ご家族に納得がいくよう十分に時間を掛けて説明を行っている。その際に施設内で起こり得るリスク等も説明している。さらに疑問点があればその都度、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時や手紙にてできるだけ声かけを行い、何でも言ってもらえるような雰囲気を作っている。	面会時や電話連絡、また家族会を通し家族の意見や要望を聴くように努めている。日頃からのコミュニケーションを大切に、利用者や家族が相談しやすい環境を心がけている。要望に対しては、できるだけ早く対応しサービスに反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、会議を開いて職員の意見を聞くようにしている。また、普段からできるだけ職員の声を聞くように心がけている。	勤務実態や業務内容などで意見がある際は会議で話し合い、各職員が連携して取り組める体制にしている。職員の仕事分担を明確にし、サービスの質の向上を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に事業所を訪れており、職員との会話をする機会を設ける等、勤務状況を把握している。また資格取得の為の支援や向上心をもって働ける職場作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ法人での研修、法人内研修等への参加機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣に姉妹法人が運営するグループホームがある。姉妹法人以外にも近隣のグループホームとの交流機会は多く、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にてご本人様の生活形態の把握に努め、できるだけ複数回の面談を行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めるケアを事前にお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様、家族が必要とするケアを見極め、必要な際には他のサービスをお勧めしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯畳み等、できることはご自身で行っていただくよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の日頃の状況をできるだけ詳しく報告・相談するように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行きつけの美容院にでかけたり、馴染みの人に遊びにきていただいたりしています。	家族の協力のもと、入居前に利用していた美容院や喫茶店に出かけたり、また旧友との手紙や電話での交流がある。時には以前働いていた職場へ足を運ぶなど、馴染みの場所と人との交流を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者間の人間関係の把握に努めています。また、レクリエーションは全員が参加できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設(病院等)に転居された場合でも、ご家族の相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で声かけを行い、ご利用者様の希望や意向の把握に努めています。	日々の会話の中から、利用者の思いや意向の把握に努めている。職員は利用者の立場に立ち、思いや意向を理解していくよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様のバックグラウンドを作成していただくよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者主体のケアプランを作成するように勤めています。	3カ月に1度のモニタリング実施と計画書の見直しをしている。職員からのアイデアが出てくれば、介護計画に活かすよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意している。食事量、水分摂取量、エピソードを個別記録に記録して、排泄、バイタル等は別の用紙に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎等の必要が発生した際には臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージ・訪問理美容等、介護保険以外の情報提供も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療法人はあるが、ご家族、ご本人が希望する医療機関がかかりつけ医になっている。	皮膚科、整形外科、歯科等の受診を職員が支援している。薬局発行の用紙を持参し、他医療機関で出されている薬がわかるようにしている。職員が付き添った際には家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師を依頼している。ご利用者様も健康管理・健康面での相談・アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるADLの低下を防ぐ為に医師や看護師と話をする機会を設け、できるだけ早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志の確認書(同意書)を作成している。重度化した際には事業所として出来る限りのケアを行っている。	確認書は入居時とADLその他容態の変化や低下がみられた際に作成している。事業所としては看取りをおこなっていく予定だが、まだ体制が整っていないため、今後の検討課題となっている。	看取りをおこなう体制を検討されることを期待している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着するまでの応急処置や準備すべきことについて、話し合いの機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間の火災を想定した消防訓練を行っている。いざというときの為に近隣住民の支援も取り付けてあり、利用者の食糧も3日分備蓄している。	災害時には2階の歩けない利用者はベランダで待機し、他は1階から非難するようにと消防署から指示を受けている。消防訓練に近隣住民の参加はない。	2回のうちの1回は、近隣住民が参加できる日程での訓練実施を検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、誇りやプライバシーを傷つけないように注意している。	プライバシー保護に関する研修は実施がないが、利用者それぞれの意見を尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定が困難な利用者様に対しては、表情を読み取る等行い、できるだけ本人に意思決定していただくよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、ご利用者様の希望があれば、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお気に入りの服装や髪型を把握して、その人らしさを保てるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する際にはご利用者様の意見や好みも参考にしている。	利用者と職員が会話をしながら一緒に食事をしている。誕生日にはケーキを用意しみんなで食べ、誕生日の利用者には好きなものを出している。また、月に1回はすしの出前の日を設けている。利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量、食事量を把握している。必要な場合には主治医にも相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯磨きができる方には声かけを行い、必要な方には口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様のトイレに行きたいサインを見逃さないように注意を払い、尿意の無い方には時間を見計らってトイレ誘導を行っている。	ほとんどの利用者が日中は自立であるが、夜間は自分でトイレまで行かない人がおり、職員が誘導している。服薬や食べ物で排便をコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には乳製品を出す、水分を多めに摂っていただく等、行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望される方には毎日の入浴を提供しています。(日曜日を除く)	基本は1日おきの入浴としているが、希望に応じている。入浴を拒否する人はいないが、順番を気にする人がいるため、入浴チェック表に順番を記入し、職員が順番に声を掛けている。同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りにくい利用者様には散歩等にて運動量を増やす、昼間にできるだけ起きていただく等の工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を綴じてあり、各職員がご利用者様の服用している薬の種類、効用が把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野では一人ひとりの力が発揮できるよう、お願いできることはお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶ツアーや買物ツアーを組んでいるが、ご本人様が希望されている際には、それ以外の日にも出掛けている。	1日1回近所を散歩している。利用者に職員が1対1で付き外出することもある。日帰りや泊りの旅行もしている。利用者の希望にそった支援を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により小額の金銭を所持・管理されている方もおり、買物の際にはご自身で会計される場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な際には事務所の電話をお貸ししている。郵便物の住所を書いたり、投函したり等の援助も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには職員と利用者様が飾りつけを行い、心地よく過ごせるよう工夫している。	対面式キッチンでリビングにいる利用者と職員が会話をしている。リビングは南向きで明るく、ソファに利用者が座り寛ぐ姿が見られた。廊下の壁面には写真やレクリエーションで作った作品を飾る等している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置して仲の良いご利用者様同士くつろげるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具はできるだけ馴染みのあるものを持ち込んでいただき、写真等があれば居室に飾ってもらっています。	好きな芸能人のポスターや自分で作った作品を壁に飾っている人、ベランダに鉢植えを置き世話をする人もいる。利用者それぞれが自分の居心地が良いようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分からなくならないよう、写真等を貼る等、工夫している。 建物の構造も職員が利用者の動きが把握しやすいようになっている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371001674
事業所名	グループホームフレンズホーム中島新町

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目：2)	評価
	毎年中学生の職場体験やサマーボランティアの受け入れを行っている。今年の中島学区の運動会の見学に出かけ、子どもと交流する場が増えた。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目：3)	評価
	偶数月に定例化して実施し、今年から地域包括支援センター職員の参加協力が得られた。また、地域の防犯活動へ貢献したいと考え、地区で配られた防犯予防を呼びかけるチョッキを着て散歩に出かけている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目：4)	評価
	区の担当者よりホームの空きや待機状況の確認があり、それを機会に情報交換と連携を図っている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目：6)	評価
	家族会を実施し、家族からのホームへの要望や意見を聞くと共に、毎年実施される外部評価の結果を報告している。家族や利用者から出た要望には、各職員はメモなどの記録と合わせて口頭での情報共有も図り、しっかりサービスに反映するよう努めている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況(外部評価)が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認(記録、写真等)できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的(年2回以上)に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的(年2回以上)に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○				

を行う。